私とＩＴ

私は、ＩＴ技術者ではない。しかし、「ＳＥ」であると公言してきた。但しＳＥ＝情報システムエンジニアではなく、「仕組みのエンジニア」という意味である。

主に製品源流の開発・設計から、製品を世に出していく仕事の「仕組み」を良くし生産性を上げる技術者を標榜してきた。とはいえ、仕組みの改善・改革の実現技術としてＩＴは今や不可欠。幸い、私は、日本における電子計算機とその利用拡大の黎明期からコンピューターに染まり始めたことが奏功したか、ＩＴを駆使するという発想・工夫が青二才の頃より日常的にあり、その延長線上に今があるといって過言ではない。

前置きが長くなったが、私のＩＴ遍歴を振り返ってみたい。

■学生時代(～1970 年)

卒研テーマは、多孔無限平板での応力集中問題の数値解析。学校には IBM カード穿孔機しかなく、わんさか作ったパンチカードを大きな紙袋へ詰めて京都大学・大型計算機センタへ持ち込み、一番安い 20 分レンタルで計算。翌朝行くとアボートしたり暴走したりで、やり直しの日々であった。

■工場勤務時代(～1992 年)

Ｍ社入社の初任配属先は工作技術部門。1970 年代半ばに自社のミニコンピュータが開発され、工場管理への活用を目的に研究所へ社内留学。

技術業務への計算機活用という刺激を得て帰任。当時、工場には事務用の中型計算機しかなく、たまたま経理に導入されたオフコンを無理やり頼み込んで品質情報解析に使わせてもらった頃から、面白くなってきた。

設計管理部門へ転属後、全社の各種プロジェクトへ率先参加し、国内でも出始めのＭＡＣを本社で買ってもらって、設計ＰＥＲＴ計算や開発資源管理を自作しＧＵＩも習得。これがパソコンらしきものやＷｉｎｄｏｗｓライクとの出会い。その流れでＢＯＭの設計オンライン化やＣＡＤの導入、そして、これらを統合したＰＤＭモドキへと展開していった。

■本社・直系会社勤務時代(～2011 年)

ＩＴ活用した業務改善を好き放題でやっていたことが本社にばれ、開発・設計からのプロセス革新を全社的に推進・支援する羽目になった。

その後、事業所ビジネス推進の担当を挟んで、2007 年からは、ＩＴ系の直系会社へ出向。自分が支援する各工場の改善・改革の仕組みを、仕掛けとして実装するまで担当し、半導体を除く全国ほぼ総ての工場に関わった。

■コンサル時代(～2013 年)

前職を 60 歳で定年退職。関西ＥＡＣでの人脈でＦ社コンサルとして拾われた。
ここでは、電機メーカーとは毛色・文化の違う重厚長大製造業の提案型コンサルを担当。
客先の経営方針展開に即した、上流プロセスの業務分析に基づく改善ビジョンとアプローチを、もちろん実現可能な仕組みとして提案。
土台には、ＩＴを最大限活用する幅広い視野での前職の経験値が支えとなった。

■現在

現役時代は、効果評価の難しい製造業の知的生産領域への経営投資を強いて、
正直、怪しげなことも多分にあった反省があり、社会奉仕で罪滅ぼしと、
ボランティアに注力。
2015 年の和歌山国体では聴覚障害者のパソコン要約筆記を担当。そして今、障害者のパソコン利用支援並びに視覚障害者や幼児・高齢者への朗読ボランティアとその中でのＩＴ担当をしている。

個人的には、終活のひとつとして愛妻のホームページ立上げを発起し、
ようやく今年、これを自作・公開できたことも、ＩＴが身近であったからだ。

（ご参考ＵＲＬ http://m-munet.com/）

このＨＰには自らのベージもちゃっかり作ったので、
次に関西ＥＡＣのＰＲにも寄与できれば幸い。

以上、
思い出すまま書き連ねたが、「老人、錆び易く、覚え留まり難し」が現下の心境。
「錆びつかせない」ための私の「防錆剤」が「ＩＴ」であり、これをうまく生かしながら「キョウヨウ」と「キョウイク」を維持していきたい。

〈今年７月、黒部源流で「オレが抱いた百人の女性」達成し、ウハウハの筆者近影〉